

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271900266		
法人名	株式会社ジャパン・ケア・サポート		
事業所名	グループホーム 楠の杜		
所在地	千葉県匝瑳市飯倉台一丁目4-12		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	2010年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康状態に問題がなければ毎日入浴することができ、利用者の状況や状態に応じて保清と心身の休息や寝衣への着替えを毎日支援することで規則的な生活を送って頂いている。 毎日午前のお茶の後には簡単な計算解答やリハビリ体操を日課として取り組んでおり、洗濯物たたみやモップ掛け等を利用者数人が自分の役割として積極的に実施している。 往診が必要な利用者は定期的に「かかりつけ医」の往診を受けて日常の生活状態・環境・生活様式なども併せた診察や相談ができ、往診対象者以外でも健康相談支援をしてもらっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員全員で考えた理念である「目配り、気配り、心配り」を日々の業務で実践している。日課として計算やリハビリ体操を行い、毎日入浴できることが、入居者の清潔保持、健康管理につながり、1日の生活リズムが構築されている。ホームは、災害時における地域の要支援者の避難場所として登録される等、地域との連携を大切にしている。また、災害対策として地域の緊急通報システムに加入し、有事の際の避難訓練にも力を入れている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価(青空ユニット)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や運営方針を踏まえ、身近でわかりやすい事業所理念をつくり実践に繋げている。	職員全員で考えた、実践的でわかりやすい理念「目配り、気配り、心配り」を、毎朝礼で唱和周知し、業務につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣者との挨拶、地域関係者の訪問、ボランティアの訪問、学生の体験学習、保育所運動会の招待参加などを通して交流を図っている。	地域の保育園の運動会に参加し、園児保護者と交流を行い、市内の高校生の体験学習の受け入れや、地域のホームステイ先より留学生の体験学習を受け入れるなど、積極的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族への状況説明と相談、運営推進会議、学生の職場体験学習者の受け入れ、利用や見学の問い合わせに対する支援などをとおした貢献に努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護職員も参加して利用者の状況、生活の状況、自己・外部評価の実績報告などを行いながら地域を代表する参加者から意見を頂いている。会議議事録は回覧して内容の共有を図っている。	市の職員、民生委員、老人クラブ、区長会、利用入居者の代表の参加で、ホームの状況説明を定期的に行い、そこから出た意見を参考にサービス向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月始め、入居者の変動、利用者の介護認定更新手続き支援などで市担当部署を訪問している。これ以外にも随時訪問したり、訪問や電話連絡を受けたりした関係をもち情報の交換を図っている。	市の職員や、地域包括支援センターの職員がホームを訪れたり、市に毎月入退居状況を報告に行く際に情報交換を行い、連携をとるようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規採用者は初期段階で教育を実施している。又、職員全てに資料を配布して周知徹底を図り防止に取り組んでいる。	職員採用時に、身体拘束をしないケアについて、初期教育テキストに基づき研修を行っている。日中は玄関を施錠せず、入居者は自由に出入りしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を作成配布し教育を実施。及び「高齢者虐待対応マニュアル」を常設し日常的に職員同士が互いに監視しあい虐待防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的知識として教育を実施し、専門知識者として県研修に随時申し込み理解者の人材育成を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項や契約内容の説明を十分に行なっている。そこでは家族の不安や疑問に対して回答説明し、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会都度、利用者の状況報告を兼ねて意見や要望を聞き対処している。又、家族アンケートの実施と公表、運営推進会議に家族代表者に参加していただき意見をもらっている。	家族の来訪が多いので、来訪時に入居者の状況報告をするとともに、意見や要望を聞き運営推進会議で提案する等、意見が反映されるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員ミーティングには運営を代表する者が必ず出席し、意見交換や検討の場としている。解決に時間を要する案件に対しては、運営者・管理者が中心となり解決に向けて努めている。	毎月定期的行なわれる職員ミーティングには、管理者や法人幹部が参加して職員の提案や意見を聞き、運営に反映するように努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年々処遇面など様々な改善に努めているが、更なる好条件となるべく検討を図りたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回階層別に教育(研修)ニーズ計画を作成している。これとは別に生じた身近な研修や教育訓練は報告書の提出をする仕組みになっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市などの同業者と協力関係があり電話連絡や職員交流などにより情報交換を図っている。又、同業者が主催する研修事業に参加させてもらうこともある。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援者などを通じ、本人の詳細な状況把握に努めている。又、本人に直接面会し積極的に働きかけ不安や思いを引き出すよう努め、悩みや不安な事柄への解消に取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の際に、必ず家族と面談し家庭や家族事情などを聴きながら、今後の生活に最適と思われる方法の相談を図ってる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との面談を通して問題を把握し、その結果、本人に他のサービス利用が有効的と判断した場合、家族や本人に対して他のサービスが受けられるように内容を説明しながら対処している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて掃除、洗濯物たたみや家事の軽作業を手伝っていただきながら関係維持を図っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族対応による通院、家族希望の外出や外泊の支援をし、注意事項の伝達や出先での状況を聞く関係を図っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人の面会があり本人に楽しんでいただいている。又、家族に相談して本人が希望する場所への外出提案などをさせてもらっている。	入居者の状況を把握して、適切な支援に心がけている。中には行き付けの美容室を利用する入居者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や買い物、余暇活動を通じ、互いの関係把握に努め食卓の席替えなどを行なって利用者同士の関係に支障が生じないように配慮している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先への訪問、退所後の来訪や連絡相談、他の関係者からの情報収集を図りながら関係維持に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話中から利用者個々からの要望や意向を聞きながら把握に努め、状況に応じて家族相談を図り実現に努めている。	普段の生活のなかから入居者の思いや意向を汲み取るよう努めている。家族の面会も頻繁で、家族からも情報を得るようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人や家族状況を調査しながら、生活歴や生活環境、及び介護サービスの利用状況などを把握し、今後の生活に活かせるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活でいつもと違った言動や行動を記録して共有し、定型化するような場合には職員ミーティングの場で支援の方法を検討している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を踏まえて課題を抽出し、本人、家族、医師、職員の意見を反映させた計画を作成している。月1回の職員ミーティングでは利用者個々の状況を話し合い介護計画見直しの可否を図っている。	介護計画は必要な関係者の意見を反映させて作成している。また、全職員参加のケアカンファレンスでは、ケアに関する成功体験の共有に努めているほか、介護計画の見直しについても話し合っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の各種記録を活用し共有しながら、月1回の職員ミーティングの場で課題検討しケア方法の共有や介護計画の変更に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時間外での面会や外出・外泊、家族の宿泊、法人資源の車輛・物品・職員配置、協力医の往診など、要望に対して可能な限り柔軟に対処するようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医の往診、消防機関立ち会いの避難訓練、保育所の運動会見学、公園への花見、ボランティアグループの受け入れなどを通して変化のある生活支援に努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により主治医を決定し、必要に応じて付き添い受診などの支援を行ない医療的な相談を図っている。	従来からのかかりつけ医への受診は家族の協力も得ながら行い、受診後の病状については家族から情報を得て共有する等の支援をしている。協力医の往診も月2回ある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はない。協力医の定期的な往診があり、必要に応じて相談を図り指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、生活上の情報を医療機関に提供し、入院中に於ける状況確認の実施、及び退院に関する相談を医療機関より家族と共に受け、退院後の生活対処を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について医師の判断を基に、本人や家族を中心に今後の適切な居場所を相談し、職員への伝達や方向性を話し合いながら共有を図っている。	重度化した場合については入居時に家族と話し合い、その後は状態に応じて家族と相談し、医師の判断を仰ぐようにしている。医療行為が生ずる場合は医療機関に、それまではホームでの介護としている。その後の在り方についても家族と相談している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の体制はマニュアルを備え付けている。より専門的に職員は救急救命講習に順次参加し技術の習得を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難の要支援者施設として市行政の防災マップに登録されている。火災避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の参加や協力体制について再検討する必要がある。	今年度、スプリンクラーを設置した。また、地域の緊急通報システムに加入している。運営推進会議では災害対策を議題にし地域との協力体制についても話し合っている。	今後は、近隣住民に参加を呼び掛ける避難訓練や夜間を想定した誘導訓練なども望まれる。全職員参加の災害対策に期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況に合わせプライバシーを損なうことのない話し掛けに努め、個人情報となる個々の記録は個別にまとめられるような形式にして取扱いに注意を払っている。	入居者が不快に感じることは言わないよう心がけている。また、トイレ等の失敗があっても責めないなど、尊厳を損ねないように配慮している。トイレ誘導時の声掛けは耳元で行い、入浴についても出来るだけ同性介助を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談を取り入れる、聞こえる耳元で話すなど個々の状態に合わせた方法で意思疎通を図りながら本人が納得した支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の一部に決まり事はあるが、原則的に利用者のペースや希望を尊重した支援に努めている。明らかに無理や無茶な事、利用者に不利益となるような事に対しては、納得していただけるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の意向による衣類などの準備や理美容室に出かける支援を都度行っている。理美容室には協力を得ており、出張を受けることもできる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる能力によって調理の下ごしらえ、食事の準備、後片づけなどを利用者と共にしている。献立は職員がバランスを考えながら順番に作成しているがメニューにもう一工夫がほしい。	雑祭、敬老の日など行事の日には、入居者の希望に沿ってお寿司など出前をとることもある。もやしのひげを取ったり、人参を切ったり、トレイやテーブル拭きなど出来ることをやってもらい、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	観察が必要となる利用者は、食事量や栄養バランス、水分摂取量を記録し職員ミーティングで検討して分量や食物形態の見直しを図っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の能力に応じた口腔ケアを利用者全員に促し、歯磨きやうがいを行なっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の能力に応じて「チェック表」で排泄パターンを把握し、時間での声かけ、又はトイレ誘導を行なっている。	排泄間隔に気を付け、トイレでの排泄を支援している。その結果、現在日中おむつをしている入居者はいない。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や日常的な運動を促し、食事バランスを考慮したメニュー作りや必要に応じて個人別にドリンク提供などの工夫を図っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は体調不良など特段の事情がない限り毎日提供を原則としており、利用者のその日の状況や状態に応じ入浴・清拭・着替えの支援を毎日行っている。	基本的には毎日、入浴の支援をしており、楽しみにしている入居者がいる。新しい入居者がホームに慣れないこともあり、入浴拒否があったが、時間を変える等の工夫をして、入ってもらえるようになった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々を観察し、昼食後に居室で休んでもらったり出来るように職員ミーティングで検討して統一を図っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり服用のタイミング毎に分包配薬した服薬支援を行っており、薬の変更時には職員に連絡して状態変化の把握を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じて家事の軽作業や掃除などを、お願いしている。又、嗜好品の家族持ち込みや購入の支援、及び季節行事やホーム行事を取り入れて気分転換の図れる生活を支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ウッドデッキを利用した日光浴、お茶会、昼食会やミニドライブなどを開催して戸外に出る機会を作っている。又、家族対応での受診、外出、外泊への協力支援を図っている。	天気の良い日は散歩に出かけるほか、広いウッドデッキでは日向ぼっこも出来る。また、2日に1度の食材の買い出しには、希望者が一緒に買い物に出ている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

グループホーム楠の杜 自己評価(青空)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族合意で自己管理されている利用者は、買い物や外出の際に嗜好物などの購入や支払の見守り援助を行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特段の事情がない限り、家族との電話を取り次いでおり、難聴などにより会話が困難な場合には職員が間に入り取り次ぎをしている。手紙の受け取りは自由であり、郵送依頼に対しても対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって玄関やリビングに花を装飾したり、利用者で過ごした写真や作品を掲示することで手作り感のある環境配置に努めている。	リビングは入居者の習字や手作りカレンダーなどが飾られ、暖かい雰囲気である。光や温度も適切で、居心地のよい空間になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間となる、リビング、ウッドデッキ、庭の要所に休息できる椅子を設置している。又、利用者が自由に利用できる和室のサンルームを配置している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいただくように家族説明を行なっている。不足する生活物品類に関して、本人や家族と相談しながら購入や配置の支援を図っている。	居室は洋室と和室があり、使い慣れたタンスや写真、位牌などを持ちこんで、それぞれが居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は概ねバリアフリー構造で、廊下・トイレ・更衣室・浴室などに手摺りを設置し個々の身体能力に応じた活用をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所